

IBM Marketing Platform
バージョン 9 リリース 1.1
2014 年 11 月 26 日

リリース・ノート

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、17ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Marketing Platform バージョン 9 リリース 1 モディフィケーション 1 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Marketing Platform
Version 9 Release 1.1
November 26, 2014
Release Notes

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1996, 2014.

目次

IBM Marketing Platform バージョン

9.1.1 について	1
システム要件および互換性	1
バージョン 9.1.1 の新機能と変更点	1
バージョン 9.1.0 の新機能と変更点	3
IBM EMM 製品でのブラウザの動作	5
修正された問題	6
既知の問題	7
既知の制限	10

サード・パーティーのソフトウェアに関連した問題	14
-------------------------	----

特記事項 17

商標	19
プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考 慮事項	19

IBM 技術サポートに問い合わせる前に . . 21

IBM Marketing Platform バージョン 9.1.1 について

本資料では、Marketing Platform バージョン 9.1.1 およびこれより前の 9.1.x バージョンに導入された新機能と変更点について説明します。

システム要件および互換性

このセクションでは、本リリースの IBM® Marketing Platform のシステム要件および互換性に関する情報の入手先について説明されています。

完全なシステム要件と互換性情報が見つかる場所

この製品と互換性のある IBM EMM 製品のバージョンのリストおよびこの製品に対するサード・パーティー要件のリストについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」という文書を参照してください。この文書は、IBM サポート・ポータル Web サイト (<http://support.ibm.com>) の『詳細なシステム要件 (Detailed System Requirements)』の下に掲載されています。

注: サポート・ポータルから IBM EMM の文書にアクセスするには、IBM アカウントでログインする必要があります。このアカウントは、ご使用の IBM お客様番号に結び付けられている必要があります。アカウントの IBM お客様番号との関連についての詳細は、サポート・ポータルの「サポート・リソース」 > 「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

IBM EMM にログインした後、「ヘルプ」 > 「製品資料」を選択することによって、この文書にアクセスすることもできます。

バージョン 9.1.1 の新機能と変更点

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 9.1.1 に導入された新機能と変更点について説明します。新機能の詳細については、「*IBM Marketing Platform 9.1.1 管理者ガイド*」を参照してください。

SAML 2.0 ベースのフェデレーテッド認証用に追加されたサポート

Marketing Platform は、多様な Java™ アプリケーション間でのシングル・サインオン・アクセスを可能にする、SAML (Security Assertion Markup Language) 2.0 フェデレーテッド認証をサポートします。

フェデレーテッド認証を使用することによって、IBM EMM アプリケーションと他の IBM アプリケーションやサード・パーティー・アプリケーションとの間でシングル・サインオンを実装できます。

Marketing Platform インストール済み環境には、フェデレーテッド確認をサポートする以下のコンポーネントが組み込まれています。

- ID プロバイダー・サーバー

- SAML 2.0 アサーションの生成および解析に使用できるクライアント JAR ファイル。IBM EMM と統合した製品では、このアサーションを使用して ID プロバイダー・サーバーと通信します。

この機能の詳細については、IBM 担当者にお問い合わせください。

監査イベントのトラッキングとレポート作成

Marketing Platform の 9.1.1 リリースでは、新しい監査イベント・レポートが導入されました。どの監査イベントを追跡するかを構成し、追跡する各イベントに重大度レベルを割り当てることができます。

監査イベント・レポートを使用することで、追跡するイベントを簡単に表示できます。レポートの内容を構成し、レポートに表示される情報をフィルタリングし、レポート・データをエクスポートできます。

2 種類の監査イベントが追跡されます。

- ユーザー状況、グループ・メンバーシップ、およびアクセス権の変更などのセキュリティ関連のイベント
- 「設定」>「構成」ページで管理する IBM EMM 構成プロパティーへの変更

監査イベント・レポートと監査バックアップを構成したり、レポートを表示したりするには、Marketing Platform で AdminRole または PlatformAdminRole の役割を付与されている必要があります。

データ・フィルターの機能拡張

データ・フィルター機能が拡張され、より簡単に、ユーザー・ログインを基にしてデータ・フィルターを構成できるようになりました。

ユーザー・ログインに基づくフィルターを使用している場合に、#user_login# ワイルドカードを使用してデータ・フィルターをユーザーまたはユーザー・グループに割り当てられるようになりました。このワイルドカード値は、実行時にユーザーのログインによって置き換えられます。この方法では、ユーザーごとに 1 つずつフィルターを作成する必要はありません。

FieldMarketers グループのすべてのメンバーをデータ・フィルターに追加する場合に作成する XML のサンプルを、以下に示します。

```
<DataFilter>
  <configId>1</configId>
  <id>1</id>
  <fieldConstraints>
    <FieldConstraint>
      <logicalFieldId>3</logicalFieldId>
      <expression>#user_login#</expression>
    <!-- This is the wild card. -->
    </FieldConstraint>
  </fieldConstraints>
</DataFilter>

<AssignmentByName>
  <namespaceId>1</namespaceId>
  <dataObjectId>1</dataObjectId>
  <!-- This is a reference to the filter.-- >
  <principalType>2</principalType>
```

```
<!-- This is the type of assignment: 1 is for assigning to a user,  
2 is for assigning to a group of users. -->  
<principalName>FieldMarketers</principalName>  
<!-- This is the name of the group to which you assign the filter.-->  
</AssignmentByName>
```

『*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*』で説明されているように、データ・フィルターそのものをセットアップするための XML も作成する必要があることに注意してください。

Interaction History と Attribution Modeler はサポートされない

Interaction History と Attribution Modeler は、バージョン 9.1.1 では利用できません。バージョン 9.1.1 のエンタープライズ・マーケティング・マネジメント製品では、バージョン 9.1.0 の Interaction History および Attribution Modeler との統合をサポートしていません。

IBM ExperienceOne Knowledge Center

バージョン 9.1.1 から、製品資料を IBM ExperienceOne Knowledge Center で参照できるようになりました。これには、ExperienceOne ファミリーの全製品の資料が含まれます。IBM ExperienceOne Knowledge Center を使用して、以下を行うことができます。

- 特定の製品についてすべての資料を検索する。
- スイート内のすべての製品にわたって検索する。
- トピックにブックマークを付ける。
- 特定のトピックへのリンクを共有する。
- IBM のサポートや教育リソースにアクセスする。

共通のタスク、トラブルシューティング、およびサポート資料を参照する方法は以前のリリースと同様で、各製品の「ヘルプ」メニューを使用します。例えば、「ヘルプ」>「製品資料」や「ヘルプ」>「このページのヘルプ」などです。他のすべての IBM 製品の資料を入手するには、IBM Knowledge Center (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/>) を使用します。

バージョン 9.1.0 の新機能と変更点

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 9.1.0 に導入された新機能と変更点について説明します。新機能の詳細については、「*IBM Marketing Platform 9.1.0 管理者ガイド*」を参照してください。

IBM EMM スケジューラーを拡張

IBM EMM スケジューラーに関して、以下の機能拡張が追加されました。

- スケジューラーの管理ページに追加情報が表示されるようになりました。

「スケジュール定義」ページで、スケジュールされた項目を検索し、リンクを使用してそれらの項目にナビゲートできます。

「スケジュール定義」ページの新しい列に、反復スケジュールの最後の 2 つの実行と次の実行がリストされます。(ENH18928、ENH18914)

「スケジュールされた実行」ページに個々の実行に関する追加の詳細が追加されました。選択した実行をこのページで取り消すこともできます。

- 新しい構成プロパティの **Platform | Scheduler | Enable Scheduler** で、組織が使用しない場合にスケジューラーを無効にすることができます。

スケジューラーを無効にすると追加のシステム・リソースが解放されるので、パフォーマンスが向上します。

- 新しい構成プロパティの **Platform | Scheduler | Maximum Unknown Status Polling Count** を使用することにより、ステータスを判別できないスケジュール済み実行のステータスをスケジューラーが検査する回数を指定できます。

この限度に達すると、実行ステータスは「設定」>「スケジュールされたタスク」ページに「不明」としてリストされます。これは、問題のある実行を管理者が識別するのに役立ちます。

IBM EMM スケジューラーに通知を使用可能

スケジュールを作成する管理者およびユーザーは、スケジュールされた実行のステータスをモニターするための通知をセットアップできるようになりました。通知はユーザーの E メールまたはシステムのボックスに送信できます。

Marketing Platform の管理者権限のあるユーザーは、スケジュール通知送信先のユーザーのグループをセットアップできます。

クラスタリングのサポートを追加

IBM EMM スケジューラーを含め、Marketing Platform はクラスタリングをサポートするようになりました。

このサポートの一部として、新しい構成プロパティの **Platform | Is this deployment clustered** が追加されました。クラスター環境では、このプロパティを「True」に設定する必要があります。

このリリースでは、Marketing Platform はクラスター環境用にサポートされていますが、eMessage はサポートされません。

このリリースでは、Marketing Platform が WebSphere® 上に配置されている場合のみクラスタリングがサポートされます。(RTC8834)

configTool ユーティリティーに手動アップグレードのための新規オプション

configTool ユーティリティーの新規コマンド `-vp` が導入されました。このコマンドは主に、手動アップグレードで構成プロパティをインポートする際に使用します。新しい構成プロパティが含まれるフィックスパックを適用した後にアップグレードする場合、手動アップグレード・プロセスの一部として構成ファイルをインポートすることにより、フィックスパックが適用されたときに設定された値をオーバーライドできます。`-vp` コマンドは、既に設定されている構成値がインポートによってオーバーライドされないようにします。

-vp コマンドで -d を使用すると、configTool は指定されたパスに含まれるどの子ノードも削除します (指定された XML ファイルにそれらのノードが含まれない場合)。

configTool ユーティリティの詳細については、「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

アラート、通知、スケジューラーのページでのソート・パフォーマンスが向上

列ソート機能のためのサーバー・サイドのソートが実装されたことにより、アラート、通知、スケジューラーのページでのパフォーマンスが向上しました。これは特に、多数のレコードに対して列ソート機能を使用する場合に注目に値します。

IBM SPSS® Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition でシングル・サインオンを使用可能

組織が IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition を使用する場合は、IBM EMM との間のシングル・サインオンを有効にすることができます。ユーザーはシングル・サインオンを使用すると、IBM EMM ユーザー・インターフェースの中から IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition に、ログインを求められることなくナビゲートできます。

シングル・サインオンの構成手順については、「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

IBM EMM インストールおよびアップグレードの改善点

インストール・プロセスおよびアップグレード・プロセスの改善点として、以下の点があります。

- 全製品のインストール・ガイドが書き直され、個別のインストール・ガイドおよびアップグレード・ガイドに再編成されています。これにより、情報を見つけやすく、また使いやすくなりました。
- インストーラーが拡張され、入力する必要がある情報の説明が改善されています。また、インストールの各段階で取るべきステップが分かりやすくなっています。
- 各インストーラーに、製品のインストール・ガイドおよびアップグレード・ガイド (PDF 形式か HTML 形式のいずれか) への直接リンクが提供されています。

IBM EMM 製品でのブラウザーの動作

IBM EMM 製品には、ブラウザーに関していくつかの制約事項と要件があります。

サポートされるブラウザー

サポートされるブラウザーのリストについては、バージョン 9.1.0 用の「*IBM Enterprise Marketing Management Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」を参照してください。

ポップアップ・ブロッカー

ブラウザーやブラウザー・アドオン (ツールバーなど) のポップアップ・ブロッカーを無効にする必要があります。ポップアップ・ブロッカーが有効になっていると、フローチャート・ウィンドウが開きません。

ナビゲーションの方法

ブラウザーのコントロールを使用してナビゲートしないでください。例えば、ブラウザーの「戻る」ボタンや「進む」ボタンは使用しないようにしてください。代わりに、IBM EMM ユーザー・インターフェースで提供されるコントロールを使用してください。

Internet Explorer での複数のブラウザー・ウィンドウの使用

この制約事項は、IBM Campaign、または Campaign フローチャートを使用するいずれかのモジュール (eMessage、Contact Optimization、Interact、Distributed Marketing) で Internet Explorer (IE) を使用する場合に適用されます。

複数回ログインして横並び情報を表示するには、IE を開いて IBM EMM にログインする必要があります。次に、IE メニュー・バーで「ファイル」 > 「新規セッション」を選択します。新しい IE ブラウザー・ウィンドウで、同じユーザーまたは異なるユーザーとして IBM EMM にログインします。

重要: これ以外の方法で複数セッションを開かないでください。例えば、新しいタブを開いたり、「スタート」メニューやデスクトップ・アイコンから別のブラウザー・セッションを開いたり、IE の「ファイル」 > 「新規ウィンドウ」を使用したりしないでください。これらの方法を使用すると、アプリケーションに表示される情報が破損する恐れがあります。

詳しくは、「IBM Campaign ユーザー・ガイド」を参照してください。

修正された問題

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 9.1.1 で修正された問題について説明します。

RTC 66262	「スケジュール定義」ページまたは「スケジュールされた実行」ページのページ最新表示を必要とする操作を実行した場合、セッションがタイムアウトになるとエラーが発生します。この問題は修正されました。セッションがタイムアウトになると、ユーザーはログイン・ページに戻されます。
RTC 107066	以前のバージョンのマーケティング・プラットフォームでは、タイ語と中国語 (台湾) がロケール・オプションに含まれていましたが、これらのロケールはサポートされなくなりました。これらのロケールは、9.1.0 以降のバージョンの Marketing Platform から削除されています。このロケールがユーザーに割り当てられていた場合、管理者はそのユーザーに新しいロケールを割り当てる必要があります。

既知の問題

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 9.1.1 における既知の問題について説明します。

<p>インストーラー・ログの場所が AIX® で正しく表示されない</p>	<p>RTC 7408, RTC 178861</p>	<p>ユーザーのホーム・ディレクトリーが / に設定されているとき (AIX 上の root ユーザーの場合はこの設定になる)、インストーラー・ウィザードに表示されるインストーラー・ログ stdout および stderr の場所が正しくありませんでした。IBM EMM インストーラーを root として実行することは必須の要件ではありません。AIX システムで root としてインストーラーを実行する場合、// ディレクトリーでログを見つけることができます。</p>
<p>クラスター環境では、アクティブ・ノードがダウンすると手動 LDAP 同期化が失敗する</p>	<p>RTC 23676, RTC 178856</p>	<p>クラスター化インストール済み環境では、LDAP ユーザーを手動で同期化する場合、クラスター内のいずれかのノードが LDAP サーバーと接続して同期化を行います。同期化を行っているノードが同期化完了前にダウンすると、エラーが発生し、プロセスがタイムアウトになるまで手動同期化を再開することはできません。</p> <p>このタイムアウトのデフォルト値は、Platform Security Login method details LDAP synchronization LDAP sync timeout 構成プロパティーで 600 分に設定されています。この値をより小さい数値に設定できます。</p>
<p>複数のシングル・サインオン・ユーザーに渡って、IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition セッションが持続する</p>	<p>RTC 67409</p>	<p>シングル・サインオンが有効になったアカウントを使用して Marketing Platform から IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition にアクセスし、ログアウトせずに IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition ブラウザーを閉じると、同じブラウザーからシングル・サインオンを使用して IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition にログインする他のすべてのユーザーが、最初のユーザーのセッションでログインしてしまいます。</p> <p>別の EMM ユーザーと コンピューターおよびブラウザーを共有しており、両方のユーザーが シングル・サインオンを使用して IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition に アクセスする場合は、モデリング・ストリーム・ウィンドウを閉じる前に、IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition から ログアウトする 必要があります。そうすることで、同じブラウザーを使用して IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition に アクセスする他のユーザーに、自分の IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition 資格情報を 利用されないようにすることができます。</p>
<p>スケジュールされたオブジェクトで非 ASCII 文字が使用されているとスケジュールが失敗する</p>	<p>RTC 72022, DEF 063677</p>	<p>非 ASCII 文字 (例えば中国語) を使用して作成された Campaign フローチャートなどのオブジェクトのスケジュール実行を構成した場合、スケジュールは失敗します。</p>

<p>レポート・コンポーネントをインストールするとき、Marketing Platform インストーラーがいくつかの必要なディレクトリーを Cognos® マシン上に作成できないことがある</p>	<p>RTC 72226, RTC 95402</p>	<p>インストーラーの実行に使用するアカウントには、Cognos インストール済み環境の以下のフォルダーに書き込むための権限が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • configuration • webapps¥p2pd¥WEB-INF¥AAA¥lib • templates¥ps • webcontent¥schemas • bin <p>これらの権限のないアカウントでインストールを実行した場合は、インストール後に、必要な権限のあるアカウントで Cognos マシンにログインしてから、copyCognosFiles.bat スクリプトを実行してください。このスクリプトは、Marketing Platform インストール済み環境の tools¥cognos10 ディレクトリーにあります。</p>
<p>「スケジュールされた実行」ページの「詳細」列のテキストが翻訳されていない</p>	<p>RTC 73856</p>	<p>「スケジュールされた実行」ページでは、「詳細」列の内容が翻訳されていません。</p>
<p>ブラウザの「戻る」ボタンを使用して IBM EMM 製品をナビゲートすると、UI が変更されてしまう場合がある</p>	<p>RTC 75262</p>	<p>IBM EMM 製品をナビゲートするには、ブラウザの「戻る」ボタンではなく、製品内のリンクを使用する必要があります。</p>
<p>Marketing Platform の 8.5 から 9.1 へのアップグレードがインストール・ログでエラーで完了する</p>	<p>RTC 103371</p>	<p>Marketing Platform バージョン 8.5 からバージョン 9.1.0 へのアップグレードが、インストーラー・ログで次のメッセージで完了する場合があります。</p> <p>The DELETE statement conflicted with the REFERENCE constraint "FK_USM_RPM_ROLE". The conflict occurred in database <i>database_name</i>, table "dbo.USM_ROLE_PERMISSION_MAP", column 'ROLE_ID'.</p> <p>「Marketing Platform 9.1.0 インストール・ガイド」の説明に従ってインストーラーを実行してもこのエラーが発生した場合は、以下のステップを実行して問題を解決してください。</p> <p>Marketing Platform システム・テーブル・データベースに対して次の SQL ステートメントを実行します。</p> <pre>DELETE FROM USM_ROLE_PERMISSION_MAP WHERE ROLE_ID IN (SELECT ID from USM_ROLE WHERE APPLICATION=(SELECT APP_ID from USM_APPLICATION WHERE APP_ID=106)); DELETE FROM USM_ROLE WHERE APPLICATION = 106;</pre>

<p>既存のスケジュール済み反復タスクのタイム・ゾーンを変更しても、CRON 式が更新されない</p>	<p>RTC 121378</p>	<p>IBM EMM スケジューラーでスケジュール済み反復タスクを設定すると、そのタスクの CRON 式では、指定された時刻が Marketing Platform サーバーのタイム・ゾーンの時刻で表わされます。後でスケジュール済みタスクのタイム・ゾーン設定を変更しても、CRON 式において、指定されたそのタイム・ゾーンでの時刻が Marketing Platform サーバーのタイム・ゾーンの時刻で表わされるように、調整がなされることはありません。</p> <p>例えば、Marketing Platform サーバーのタイム・ゾーンが EDT であるとします。反復タスクを、ある日付の EDT タイム・ゾーンの 11:30:00 am に開始するように設定した場合、CRON 式では hour/minute/second が 11:30:00 am となります。繰り返しタスクを、ある日付の GMT タイム・ゾーンの 11:30:00 am に開始するように設定すると、CRON 式では hour/minute/second が 6:30:00 am となります。Marketing Platform サーバーのタイム・ゾーンは EDT であって、GMT は EDT より 5 時間早いからです。</p> <p>上の例を使って、既存のスケジュール済みタスクを変更して別のタイム・ゾーンを指定する場合に、そのタスクに定義済みの CRON 式において新しいタイム・ゾーンに合わせた調整は行われないうことを確認してみましょう。例えば、既存のタスクの設定時刻を EDT の 11:30:00 am から GMT の 11:30:00 am に変更しても、タスクの CRON 式の hour/min/second は (6:30:00 am になるべきところが) 11:30:00 am のままです。</p> <p>この問題を解決するために、次の回避策のいずれかを行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 既存の反復スケジュール・タスクを削除し、新しいタイム・ゾーンを指定して新しい反復タスクを作成し直す。 • タイム・ゾーンを変更する必要がある既存の反復スケジュール・タスクを更新するときに、タイム・ゾーンを変更した後、反復パターンも入力し直してからタスクを保存する。こうすることで、CRON 式は更新されます。
<p>ユーザーが Campaign または Marketing Platform のページからログアウトできない</p>	<p>RTC 121489</p>	<p>Campaign が他の IBM EMM 製品とともにインストールされている場合は、Campaign または Marketing Platform のページからログアウトすることができません。対処方法としては、Campaign または Marketing Platform のページ以外の製品ページに移動し、そこからログアウトします。</p>

ユーザー名に非 ASCII 文字が含まれているユーザーは、シングル・サインオンを使用して IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition にログインできない	RTC 131626	現時点で、この問題の対処方法はありません。
スケジュール・タスクを編集すると、JavaScript エラーが発生することがある	RTC 176909	「スケジュール定義」ページでスケジュール・タスクを編集すると、「変更の保存」をクリックしたときにポップアップ・ウィンドウで JavaScript エラーが表示されることがあります。この問題は、Internet Explorer で「スクリプト エラーごとに通知を表示する」オプションが設定されている場合にのみ発生します。このエラーが表示されても、変更は保存されます。
オペレーティング・システムが日本語ロケールを使用している場合、アンインストール・プロセス中に、インストーラーがデータのバックアップを実行しない	RTC 177516	日本語オペレーティング・システム上でアンインストール・プロセス中にデータがバックアップされるように選択すると、バックアップが失敗して、次のエラー・メッセージが表示されます。「The garbage characters are logged in <i>product_uninstall_stderr.log</i> 」 対処方法として、手動でバックアップを実行してから、アンインストール・プロセスを開始します。

既知の制限

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 9.1.1 における既知の制限について説明します。

レポート・フォルダの権限はパーティション間で同期する	DEF 045222	マルチパーティション環境では、1 つのパーティションでレポート・フォルダ権限を同期すると、他のパーティションへのフォルダ権限もそのパーティションに追加されます。現在のパーティションに属さないフォルダの同期では、権限の問題は何も生じません。
LDAP グループ・マッピングを削除してもマップされたグループからユーザーを除去できない	DEF 047290	「構成」ページから LDAP グループ・マッピングを削除した場合、マップされたグループにインポートされたユーザーはそのグループから除去されません。グループからユーザーを手動で除去してください。

<p>アップグレード後の一部の Campaign 構成プロパティが正しくない</p>	<p>DEF 045746</p>	<p>Campaign のバージョンを 7.x から 8.1.0 にアップグレードした場合、一部の構成プロパティが正しくありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部のプロパティ表示名に「Affinium」が表示されます。この名前の不整合によって機能が影響を受けることはありません。 Campaign カテゴリに、Campaign 8.1.0 では使用されない「unicaUdiSvr」カテゴリおよびそのプロパティが表示されます。 <p>configTool ユーティリティを使用して、表示名から「Affinium」を除去したり、「unicaUdiSvr」カテゴリを除去したりすることができます。以下に、これを行う方法について例を挙げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Marketing Platform のインストール済み環境の tools/bin ディレクトリでコマンド・ウィンドウを開きます。 configTool を使用して、すべての Campaign プロパティをファイルにエクスポートします。以下の例のコマンドは、tools/bin ディレクトリにある campaignProperties.xml という名前のファイルにプロパティをエクスポートします。 <pre>configTool -x -p "Affinium Campaign" -f campaignProperties.xml</pre> <ul style="list-style-type: none"> テキスト・エディターまたは XML エディターでエクスポートされたファイルを編集します。 configTool を使用して、改訂されたファイルを上書きオプションでインポートします。以下に例を示します。 <pre>configTool -i -p "Affinium" -f campaignProperties.xml -o</pre>
<p>7.2.x から 7.5.x へのアップグレードの際にパーティション・メンバーシップが失われる</p>	<p>DEF046155、 DEF046162</p>	<p>Affinium Manager のバージョンが 7.5.x よりも前である場合、Marketing Platform バージョン 8.x へアップグレードする前に 7.5.1 にアップグレードする必要があります。Affinium Manager 7.5.1 のアップグレード・スクリプトは、パーティション・メンバーシップを自動的に保持するわけではありません。代わりに、Marketing Platform 8.x にアップグレードする前に、手動でパーティション・メンバーシップを復元する必要があります。このプロセスは「Marketing Platform インストール・ガイド」に説明されています。</p>
<p>Active Directory ユーザーが NetInsight または Customer Insight にログインできない</p>	<p>DEF 046778</p>	<p>Marketing Platform が Active Directory と統合されている場合、Active Directory または LDAP サーバーと同期しているユーザーは Digital Analytics for On Premises および CustomerInsight にログインできません。</p>
<p>IBM EMM アプリケーションをアンインストールしてもそのメニュー項目が除去されない</p>	<p>DEF047048</p>	<p>IBM EMM アプリケーションをアンインストールしても、そのアプリケーションのメニュー項目が「構成」ページに残ります。それらを除去するには、「構成」ページに移動し、「Platform Platform 全体のナビゲーション」カテゴリの下にある適切なメニュー設定を探して「カテゴリの削除」をクリックします。</p>
<p>レポートの実行を取り消すとエラーが生じる</p>	<p>DEF047550</p>	<p>実行中のレポートを取り消した後、別のレポートを実行しようとするエラー・メッセージが表示されます。「分析」メニューを選択して再度レポートを実行してください。</p>

長さの制限を超えた役割名を入力すると情報が足りないエラー・メッセージが表示される	DEF047639	役割名に 120 文字 (長さの制限) を超えて入力すると、「Error 500-Internal Server Error」というエラーが表示されます。メッセージは長さの制限を示すものであるべきです。
Windows 統合ログインを使用した「ログアウト」リンクが冗長である	DEF047870	Marketing Platform が Windows Active Directory と統合されていて、Windows 統合ログインが有効になっている場合は、「ログアウト」リンクを使用してログアウトすることはできません。「ログアウト」をクリックした場合、ブラウザー・セッションは終了し IBM EMM をログアウトしたように見えますが、再度自動的にログインします。IBM EMM をログアウトしたら、ブラウザーを閉じてください。
「プリファレンスの編集」を使用して「開始」ページを設定するときに IBM EMM URL を使用できない	DEF050523	ユーザー用の「プリファレンスの編集」ページを使用してそのユーザーの「開始」ページを設定する場合、初期 IBM EMM ログイン URL (http://host:port/unica) を使用すべきではありません。使用すると問題が起きます。
スロットル・グループ名では非 ASCII 文字は許可されない	DEF050689	スケジューラーのスロットル・グループを作成する場合に非 ASCII 文字を使用するとエラー・メッセージが表示されます。スロットル・グループ名には ASCII 文字のみを使用してください。

<p>7.5.x から 8.x へのアップグレード中にエラーが発生する</p>	<p>DEF050735</p>	<p>Affinium Manager 7.5.x から Marketing Platform 8.x にアップグレードする場合、既存の Manager システム・テーブルに格納されているデータ・ソース・キーは非暗号化し、その後 8.x のデータベースに格納するために再度暗号化しなければなりません。</p> <p>(encryptPasswords -k) を使用して 7.5.x で鍵ストア・パスワードを変更しており、かつ Platform が AIX にインストールされているのでない場合、次の手順を使用して問題を解決することができます。</p> <p>この回避策は、Platform が AIX にインストールされている場合には適用されません。その場合、IBM EMM にログインし、データ・ソースのパスワードを手動で変更する必要があります。</p> <p>この手順では、最新の Java Cryptography Extension (JCE) Unlimited Strength Jurisdiction Policy Files 5.0 を持っていることを確認します。</p> <p>これらのファイルは、http://java.sun.com/javase/downloads/index_jdk5.jsp からダウンロードします。</p> <p>Java Cryptography Extension (JCE) Unlimited Strength Jurisdiction Policy Files 5.0 にスクロールし、以下を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Manager 7.5.x インストールの JRE に更新済みの JCE Unlimited Strength Jurisdiction ファイルがあることを確認します。ダウンロードの説明に従って、local_policy.jar および US_export_policy.jar を jre/lib/security ディレクトリーにコピーします。 2. encryptPasswords -k を使用して、鍵ストア・パスワードを再び暗号化します。 3. Platform インストーラーで提供されている JRE を使用しない場合、使用する予定の JRE の JCE Unlimited Strength Jurisdiction ファイルの更新も行います。 4. Platform インストーラーを実行します。これにより、鍵が 8.x に移行されます。 <p>JCE の更新が行われないか、Platform システム・テーブル・データベースが AIX であるためにこの回避策を使用できなかった場合、以下のエラーが表示される可能性があります。</p> <p>ファイル [<code><INSTALL_DIR>%Affinium%Manager%conf%kfile</code>] から鍵を取得できませんでした。原因: 鍵のサイズが正しくありません。(Cannot retrieve the key from the file [<code><INSTALL_DIR>%Affinium%Manager%conf%kfile</code>], cause: Illegal key size)</p> <p>javax.crypto.BadPaddingException: 埋め込みブロックが破損しています (javax.crypto.BadPaddingException: pad block corrupted)</p> <p>このエラーが発生する場合、IBM EMM にログインし、データ・ソースのパスワードを手動で変更します。</p>
<p>ユーザー名にスペースまたは句読文字を含めることができない</p>	<p>DEF051877</p>	<p>ユーザーのログイン名にスペースまたは句読文字が含まれていると、ユーザーはページ間を移動でき、IBM EMM を正常に使用することができますが、JavaScript のエラーがすべてのページに表示されてしまいます。ユーザー・アカウントのログイン名にはスペースまたは句読文字を含めないでください。</p>

グループ名、役割名、およびポリシー名に非 ASCII 文字がサポートされない	DEF051431	グループ名、役割名、またはポリシー名に非 ASCII 文字を使用しようとすると、「英数字のみ使用してください」というエラー・メッセージが表示されます。これらの名前に非 ASCII 文字を使用しないでください。
複製する役割名は許可されない	DEF051895	Affinium Manager 7.5.x では複製する役割名は許可されていました。Marketing Platform 8.0.0 以降、複製する役割名は許可されません。7.x から 8.x にアップグレードしていて、同じ名前の役割が複数ある場合、アップグレードの前に名前を変更して複製が存在しないようにしてください。
Platform 7.5.x のアップグレード用ディレクトリーに対するインストーラーのメッセージが分かりにくい	DEF051952	Marketing Platform を 7.5.x から 8.1.0 にアップグレードするときに、7.5.x バージョンをインストールするディレクトリーを指定するようインストーラーからプロンプトが出されます。インストーラーがそのディレクトリーにインストール・レジストリーを見つけることができない場合、「インストーラーは [ディレクトリー] に指定されたマネージャー・アップグレード・ディレクトリーを見つけることができませんでした」というメッセージが表示されます。アップグレード中にこのメッセージが表示された場合、指定したディレクトリーが正しいことを確認し、アップグレードを続行してください。

サード・パーティーのソフトウェアに関連した問題

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 9.1.1 におけるサード・パーティー・ソフトウェアに関連した問題について説明します。

アンインストール・プロセスで、インストーラーが作成したディレクトリーがすべては削除されない	RTC 8616, RTC 64640	Marketing Platform アンインストール・プロセスでは、Marketing Platform インストーラーが作成したすべてのディレクトリーが削除される必要があります。InstallAnywhere から修正が要求されています。
---	------------------------	---

<p>60 分を超える 間隔で IBM EMM スケジュー ラー・タスク をスケジュール できない</p>	<p>RTC 130030</p>	<p>CRON 式を使用する場合、60 分で「時間」が変更になるため、59 分より長い間隔を構成することはできません。同様に、反復タスクに 70 分や 74 分を指定することもできません。対処方法としては、同一のオブジェクトに対して、開始時刻をずらした 2 つのスケジュールを指定します。</p> <p>例えば、フローチャートの実行間隔を 90 分に指定したいとします。その場合、次のように 2 つの反復スケジュールを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スケジュール A <ul style="list-style-type: none"> - 開始時刻: 午前 7:00 - 間隔: 3 時間 <p>このスケジュールによって、フローチャートは午前 7:00の次は午前 10:00 に実行され、その後も同様の間隔で実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スケジュール B <ul style="list-style-type: none"> - 開始時刻: 午前 8:30 - 間隔: 3 時間 <p>このスケジュールによって、フローチャートは午前 8:30 の次は午前 11:30 に実行され、その後も同様の間隔で実行されます。</p>
---	-------------------	---

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的な事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明するこ

と、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような意図による、クッキーを含めたさまざまなテクノロジーの使用に関する情報は、「IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント」(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja>) の『クッキー、Web ビーコン、その他のテクノロジー』の節を参照してください。

IBM 技術サポートに問い合わせる前に

資料を参照しても解決できない問題が発生した場合は、貴社の指定サポート窓口の方が IBM 技術サポートに問い合わせることができます。以下のガイドラインを使用して、問題が効果的かつ成功裏に解決するようにしてください。

貴社の指定のサポート窓口以外の方は、必要な情報についてお客様の IBM 管理者にお問い合わせください。

注: 技術サポートが API スクリプトを記述したり作成したりすることはありません。API オファリングを実装するための支援が必要な場合は、IBM Professional Services に連絡してください。

収集する情報

IBM 技術サポートに問い合わせる前に、以下の情報を収集してください。

- 問題の性質についての簡単な説明。
- 問題発生時に表示される詳細なエラー・メッセージ。
- 問題を再現するための詳細な手順。
- 関連したログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 『システム情報』で説明されている方法で取得できる、製品とシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、お客様の環境に関する情報の提供をお願いすることがあります。

生じている問題によってログインが妨げられていなければ、この情報の多くを、インストールされている IBM アプリケーションについての情報を示す「バージョン情報」ページから取得できます。

「バージョン情報」ページには、「ヘルプ」>「バージョン情報」と選択することでアクセスできます。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合には、アプリケーションのインストール・ディレクトリの下にある `version.txt` ファイルを調べてください。

IBM 技術サポートの連絡先情報

IBM 技術サポートに連絡する方法については、IBM 製品の技術サポートの Web サイト (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するためには、IBM アカウントを使用してログインする必要があります。このアカウントは、IBM 顧客番号とリンクされている必要があります。アカウントを IBM 顧客番号と関連付ける方法については、Support Portal の

「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。



Printed in Japan